ＳＮＳ教育プログラム　レッスン２　学習指導案

１　単元名　　ＳＮＳを投稿する前に考えること

２　本時のねらい

ＳＮＳでのコミュニケーションを行う際に生じる相手との誤解や認識のズレに気付き、受け取る側の気持ちに配慮したコミュニケーションの在り方を考える。

３　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **時間** | **学習活動** | **指導上の留意点** |
| 導入（10分） | ＜スライド11、12＞・前時の内容を確認する。＜スライド13＞ | ・以下の２点を再確認する。①自分と他人の物事のとらえ方や感じ方には違い（感覚のズレ）があること。②ネット上のコミュニケーション（テキストコミュニケーション）は対面のコミュニケーションとは異なることアイスブレーキング（グループ活動による）あなたが、クラスの友だちからされて「いやだな」と感じる順に番号をつけてみましょう・本時のねらいである「リスクの見積もり」の準備として、ＳＮＳ利用をテーマにアイスブレイクとしてグループ活動を行う。 |
| 展開（30分） | ＜スライド14、15＞リスクの見積りトレーニング（グループ活動）発問：ワークシートのＳＮＳのやり取りを見て、その後を予想しよう。また、その理由も考えよう。ＳＮＳ上の会話ネット上のコミュニケーション(テキストコミュニケーション)を示した３つのケースにおいて、予想されるリスクをグループで話し合う。・４人グループを作り、ワークシートのＳＮＳでのやり取りを見て、まずは個人で考え、その後グループでその後の展開を予想する。＜予想される生徒の反応＞・コミュニケーションって難しい・顔を見て話をした方が、気持ちが伝わりやすい・テキストから判断するのは難しい・結末は同じでも、理由が違う・人によって価値観は違う　・直接話せていれば回避できるリスクでも、ＳＮＳ上のやりとりでは、テンポが速いことに加え、短い文で、文字だけの会話になるため誤解や感じ方の違い(ズレ)が生じやすいことを再確認する。 | ・ワークシートを配付し、以下の問い掛け、説明を行う。・３つのケースの中からいくつかを選ばせるか、事前にどの班にどのケースを担当させるかを決めておいてもよい。・まず個人で考えさせ、その後４人グループで交流させる。・発表後にネット上に潜む様々なリスクを「情報モラル」と併せて確認しながら理解させるとよい。＜指導のポイント＞・意図の誤解や認識のズレが生じることを気付かせる。・ネット上のコミュニケーションにおけるリスクを再確認する。・簡単にコピー、瞬時に拡散・個人情報が特定される・完全に消えない |
| まとめ（10分） | ＜スライド16、17＞・ＳＮＳ投稿前Checkを確認する。ＳＮＳ上でコミュニケーションを図る際に常に意識すべき８つのチェック項目を生徒に確認する。 | ・ＳＮＳ投稿前Checkを読み上げる。＜指導のポイント＞・ＳＮＳを利用する時には、投稿する前に、その投稿は「本当に問題ないか」自分で考えることが大切であること。・相手を思いやってコミュニケーションを図ることは重要なことであるが、一方でネット上のコミュニケーション（テキストコミュニケーション）の特性から、どんなに気を遣っても、トラブルは生じる可能性があることも理解させる。 |

４　教材　　ワークシート「リスクの見積りトレーニング」

　　　　　　※出典：「ＳＮＳノート（情報モラル編）カード教材　こんなつもりじゃなかったのに」（LINE株式会社）

５　実践するにあたって

　(1) 概要

　　　○　リスクの見積りトレーニング

・用意されている３つのケースすべてに取り組む必要はなく、グループ内でもっとも印象的なケースを選んで取り組ませるなど、生徒の実態に応じて柔軟に対応する。

・テキストコミュニケーションと対面のコミュニケーションの違いについて、生徒が体験をとおして気付くことを促す。

・仮想のＳＮＳでのやりとりをとおして、個人およびグループでその後のリスクを予想させ、トラブルにならないための方法の最適解を求めさせる。

　 (2) 基本的なスタンス

・一番大切なことは、生徒がＳＮＳにおけるトラブルを自分のこととして捉えることだが、単に怖がらせて終わりでは効果的とはいえない。ＳＮＳトラブルは、自分の振る舞い方で予防、回避できることを理解させる。

・したがって、リスクの見積りトレーニングでは、いずれのケースにおいても、トラブ　　　ルになるという前提（もしくはトラブルの芽が潜んでいるという前提）で臨むことが必要である。

　（3）工夫するとよい点

　　　・意見を共有する時間を確保するとよい。

　　　・ＳＮＳに関して保護者とどのように話をしてきたかを確認してみてもよい。